

ミサの意向

ひきこもり当事者、家族と支援者のため

日本には約70万人（H22年内閣府実態調査〈15～39歳対象〉）ともいわれる「ひきこもり」の人たちがいます。「ひきこもり本人」も「ひきこもり家族」も社会参加に困難を味わい、孤立した状態でひきこもり生活を続けています。社会生活の再開を望みながらも、社会から遠ざかり人目に付くことも少ないのです。「ひきこもり当事者」の痛み苦しみの胸の内の叫びを、主イエス・キリストを通して父である神に届けるためにミサを捧げたいのです。

「ひきこもり」は社会的に負の意味づけがなされ、名乗りにくいのが現状です。一人ひとりは無名の当事者であっても共にミサを捧げ、ミサの中で、私たちがひきこもり当事者であることを伏せたり、別のことにしたりせずに当事者として神の民であり、神の国にはいる恵を願います。

「ひきこもり」は支援を得ることができます。ひとりでは困難なことも支援者と共にやりやすくなります。社会と再び出会い、心の窓、家庭の窓を開けられるように恵を願いたいのです。

ひきこもり支援のためにミサの中で祈りましょう。

七十二人の集い

そののち、主は別に七十二人を指名し、自分が行こうとしているすべての町や村に、ふたりずつ、先におつかわしになった。そのとき、かれらにこう仰せられた、「刈り入れは多いが、働く人は少ない。だから、刈り入れのために働く人を送ってくださるよう、刈り入れの主に祈り求めなさい。行きなさい。」(ルカ福音書 第10章 フランシスコ会訳)

七十二人の集いは、ひきこもり経験者、発達障害当事者のイエズス会ブラザーが始めた教会活動、当事者活動です。もう30年前のことですが、二十歳の時にひきこもり5年近く過ごしました。その時の経験は忘れられないし、今の自分にとっても大切なことです。ひきもっていた頃両親家族を困らせたことを振り返り、初めは「ひきこもりの親」のために、次ぎに「ひきこもり本人」や支援者のために何かしたいと思うようになりました。2010年12月26日聖家族の祝日、イエズス会駒場修道院の使徒職として発足しました。

〒177-0044 東京都練馬区上石神井 4-32-11

イエズス会上石神井修道院気付

電話：03-3929-0847 FAX：03-5991-6928

<http://www.72nin.com/>

e-mail：info72nin@gmail.com

郵便振替「七十二人の集い」00140-4-596051